



多羅尾代官陣屋跡を紹介するホームページはこちら



甲賀市信楽町多羅尾は、県の最南端にある自然豊かな山あいの集落です。京都・三重・滋賀の県境に位置するこの地域は、かつて京都から伊賀・伊勢へ抜ける「京街道」など主要道が通る要衝の地でした。そんな集落の旧街道沿いの高台にある旧跡「多羅尾代官陣屋跡」が、5月31日まで春の一般公開中です。期間中の5月初旬には、敷地内に植えられたボタンが見ごろを迎えます。

■ 多羅尾代官陣屋跡 (甲賀市)

地元有志の牡丹園 10年目



⑤地元の有志の皆さんによるボタンの管理の様子 ⑥多羅尾代官陣屋跡と牡丹園＝いずれも甲賀市信楽町多羅尾で

多羅尾代官陣屋跡とは、江戸時代、幕府勘定奉行のもとは直轄地の支配を行う代官を世襲で務めた旗本・多羅尾氏の本拠地でした。多羅尾氏は、元は甲賀武士で、本能寺の変の直後に発生した徳川家康「神君伊賀越え」の道中の警護に尽力

し、危機を救ったという由緒を持っていました。この功績から、徳川(江戸)幕府成立後に2家に分かれ旗本として信楽に領地を与えられます。多羅尾氏は慶長期から明治まで260年間、幕府直轄領を管理する信楽代官を10代にわた

り務め上げました。現在、陣屋跡に当時の建物は現存しませんが、一帯を見渡す高台に造成された広大な敷地や「切り込みハギ」といわれる切り石積み精巧な石垣や庭園などが残り、その歴史を今に伝えていきます。敷地内の蔵屋敷と伝わる

下段には、多羅尾氏の家紋「大割牡丹」または「抱き牡丹」に由来して、約300株のボタンが栽培されています。春と秋の一般公開の際、敷地内の見学とあわせて「春はボタン、秋は紅葉」を、ご覧いただけるようにと、2016年より地元有志の皆さまによって施設内の整備、管理とともに栽培が行われてきました。今年で10年目となる牡丹園。その年の天候による病気や害虫対策、水の確保などさまざまな苦労があるそうです。それでも訪れた方に楽しんでいただけたらと、また地域の皆さんの憩いの場となることが、何よりの励みになりますとおうかがいしました。歴史の面影をたどりながら、緑芽吹く多羅尾の自然、そして大輪のボタンを楽しみに、ぜひお立ち寄りください。(信楽町観光協会・松田晃余)

◇ 【アクセス情報】多羅尾代官陣屋跡へは信楽高原鉄道信楽駅よりタクシーで約15分。車は新名神高速道路信楽インターチェンジ(IC)から約25分。④多羅尾地域市民センター(平日) 0748(85)0001



これまでの「しが旅のススメ」はこちら